

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区千駄木 2-6-3
園名	にじいろ保育園千駄木

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界（世界を知る、自分を広げる）

<テーマの設定理由>

もともと地図や図鑑を眺めることが好きな子が多く、外国の暮らしや見たこともない建物や絵本に興味を持ち繰り返し図鑑を開いては「ここはどこ?」「どんな言葉をお話すの?」と本に書いてあることを覚え自分の知識として友だちや保育者に嬉しそうに話したりする姿がありました。そのように子供たちが自ら未知の世界へ関心を広げて発見を楽しむ姿を大切に育んでいきたいと考え本テーマを設定しました。

### 2. 活動スケジュール

7月

「せかいタッチのクイズに挑戦し、外国の七夕文化を楽しむ」

「せかいアートに触れて自由に想像を広げて画用紙や絵の具で作ってみる」

「マグロのマグーと一緒に世界の動物、食べ物、景色、建物を見て楽しむ」

8月

「せかいトークで果物の英語クイズに挑戦し、ヒンディー語やインドの文化に触れて楽しむ」

「韓国語の挨拶を声に出して表現する」

「オーストラリアの食事について料理の名前や見た目を見してみる」

9月

「フランス語の挨拶を声に出して表現する」

「オーストラリアの手遊びを楽しむ」

「フランス語の挨拶を声に出して表現する」

10月

「スペイン語の挨拶を声に出して表現する」

「タイの食事文化を楽しむ」

「ハロウィン挨拶を声に出して表現する」

1 1 月

「中国語の挨拶を声に出して表現する」

1 2 月

「ドイツ語の挨拶を声に出して表現する」

1 月

「ベトナム語の挨拶を声に出して表現する」

「ケニア民族衣装に触れて自由に装飾物など作ってみる」

2 月

「フィンランド語の挨拶を声に出して表現する」

3 月

「アラビア語の挨拶を声に出して表現する」

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 【素材・道具】

カプラ（建築再現用）、不織布・ビーズ（民族衣装・装飾用）、折り紙、粘土、空き箱等の廃材、画用紙、大型モニターによる現地の映像視聴、世界地図（壁面に掲示）、国旗図鑑、世界の文化に関する絵本、クッキング用調理器具

#### 【環境の設定】

・たくさんの絵本や図鑑の中から子供たちの興味関心が引き出せるように、世界地図（壁面）や国旗図鑑、世界の文化に関する絵本を常設したコーナーを作り、いつでも手に取れるようにした。

・遊びの中でも世界の文化や建築を表現できるよう、カプラや不織布・ビーズ、折り紙、空き箱等の廃材、画用紙を揃えた製作スペースを保育室内に設けた。

・子供たちが「作りたい」「やってみたい」と思った時にすぐに取り組めるよう、製作素材や道具を子供たちの手の届く棚に配置し、自由に出し入れしやすいようにした。

・「世界の料理を自分たちで作りたい」という提案があった際に、給食室の栄養士に直接相談しに行ける環境を整え、実体験を通じた学びができるようにした。

・「本物の世界を見てみたい」という意欲に応えるため、大型モニターを導入し、現地のリアルな映像や ZOOM による海外の園との交流ができる環境を整えた。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### 「図鑑や地図をじっくり読み、楽しむ」

- ・自由遊びの時間に棚から世界地図や国旗図鑑を自ら選び、繰り返し眺めることで、まだ見ぬ世界への興味関心を広げた。
- ・図鑑で得た知識を「ここはフランスだよ」「この旗はね……」と友だちや保育者に共有し、教え合う姿が見られた。

###### 「カプラやブロック、廃材で作ってみる」

- 映像で見た「オペラハウス」や「エッフェル塔」を自分たちでも再現したいという気持ちが芽生え、カプラやブロックを使って複雑な形に挑戦した。
- 廃材やビーズ、不織布を使い、マサイ族のネックレスや民族衣装を細部まで表現するなど、平面から立体的な製作へと活動が発展していった。

###### 「現地の映像を視聴し、実物（リアル）に触れてみる」

- ・大型モニターで現地の景色や動物の映像を視聴し、自分たちの暮らしとの違いを肌で感じた。
- ・ZOOM 交流では、画面越しの「変顔大会」やジェスチャーゲームを通じて、言葉が通じなくても心を通わせられる喜びを実感した。

###### 「せかいアートで自由に想像を広げてみる」

- ・名画の一部を切り取った画用紙から「続きの世界」を想像し、最初は戸惑いながらも、次第に自分の内側から湧き出るイメージを白い画用紙いっぱい自由に描く。

###### 「世界の料理を調べ、実際に作って食べてみる」

- ・オーストラリアのワニ肉への驚きから食文化への探究が始まり、パブロバやラミントンといった未知の料理に興味を抱いた。
- ・自分たちで作ってみたいという提案から栄養士へ相談に行き、実際にクッキングを行うことで、世界の味を五感で楽しんだ。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

###### 「図鑑や地図をじっくり読み、楽しむ」

- ・世界地図の壁面の前に集まり「オーストラリアは海に囲まれているね」「日本と似てるかも！」と友だち同士で発見を伝え合う姿があった。
- ・保育者が「この国にはどんな動物がいるかな？」と図鑑を差し出すと、「クイズにしようよ！」と子供たちがひらめき、図鑑を隠しながら特徴を出し合う「世界動物クイズ」へと遊びが発展していった。

#### 「カプラやブロック、廃材で作ってみる」

・オペラハウスの複雑な形を再現しようと苦戦する中、友だち同士で「ここを斜めに置いたらどう？」「支えが必要だよ」と会話を重ねる中で、カプラを交互に積むアイデアをひらめき、協力して完成させる喜びを分かち合っていた。

・マサイ族の衣装作りでは、「もっとキラキラにしたい」という一言から、「ビーズを紐に通して廃材にくっつけたらどうかな？」と子供たちで材料を組み合わせる工夫が生まれ、装飾がより細かくなっていった。

・せかいアートでは白紙を前に手が止まっていた子が友だちの描いた大胆な色使いを見て「あ！これは空じゃなくて宇宙にしよう！」とインスピレーションを受け、自分なりの世界を描き始める姿が見られた。

#### 「現地の映像を視聴し、実物（リアル）に触れてみる」

・ZOOM 交流でオーストラリアの友達的笑顔を見た際、「言葉がわからなくても、笑うと同じだね」という気づきを友だちと共有し、相手に伝わるように身振り手振りを大きくして関わろうとする主体的な姿が見られた。

#### 「世界の料理を調べ、実際に作って食べてみる」

・「自分たちで作ってみたい」という意欲が強まり、「先生、給食の先生に聞きに行ってもいい？」と子供たちから提案し、自分たちで質問内容をまとめて栄養士に相談に行く積極的な姿勢が見られた。

#### 「未知の言葉への好奇心とひらめき」

・新しい国の挨拶（フランス語、スワヒリ語、アラビア語など）を聞いたたびに、「どんな意味かな？」「魔法の言葉みたい！」と目を輝かせ、友だち同士で教え合う姿がみられた。

・アラビア語の「アッサラーム アライクム」といった長いフレーズに触れた際、子供たちが「リズムに合わせれば覚えられるかも！」とひらめき、手を叩きながらリズムに乗って挨拶を楽しむなど、自分たちで覚える工夫を編み出していた。

## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

「しりたい」という純粋な好奇心から、初めて目にするアラビア語の文字や挨拶に驚き、そこから未知の文化へと興味を広げていく子供たちの探求心の深さを改めて実感した。図鑑や映像の平面的な情報から始まり、英語での設問に対して自ら考え言葉を返そうとする姿が見られるようになったことは今回の大きな収穫である。子供たちの発想や気づきの豊かさに驚かされることが多く、こうした経験が将来の選択肢を広げるきっかけになればと願っている。





